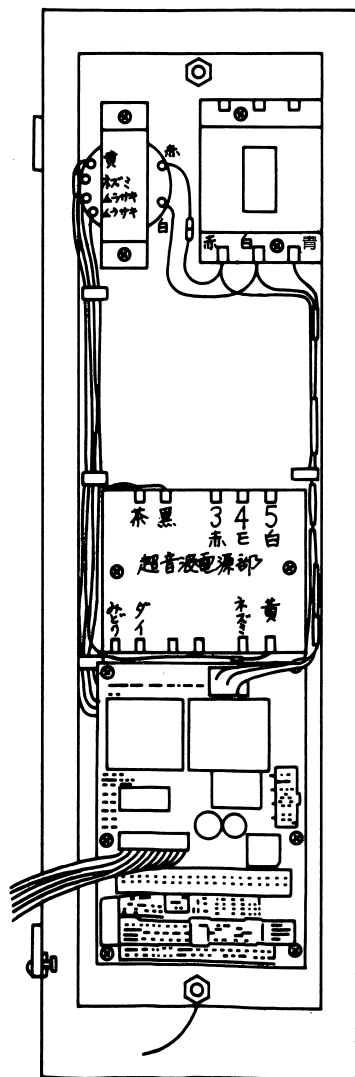


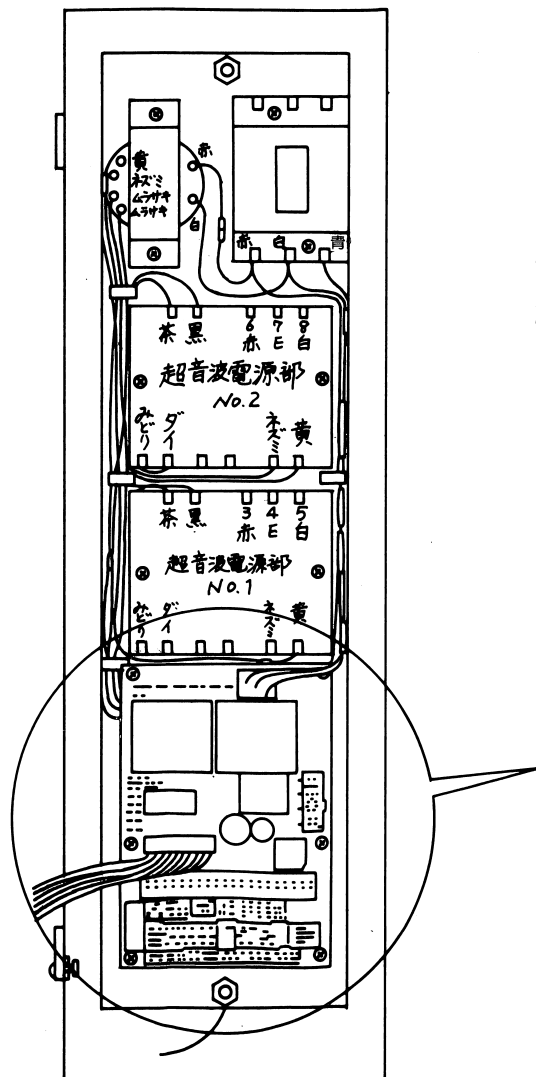
7 電線接続要領

■ 制御盤基本接続図

●超音波センサー電源部
1 個図

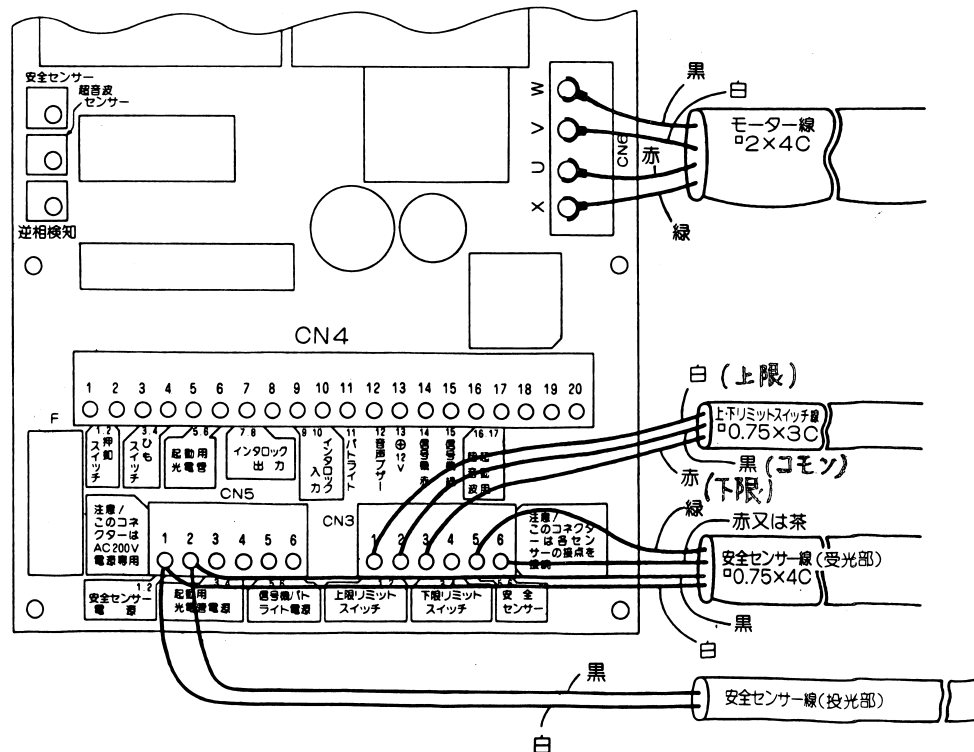


●超音波センサー電源部
2 個図

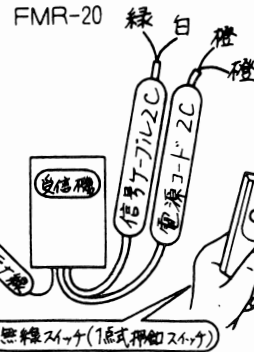
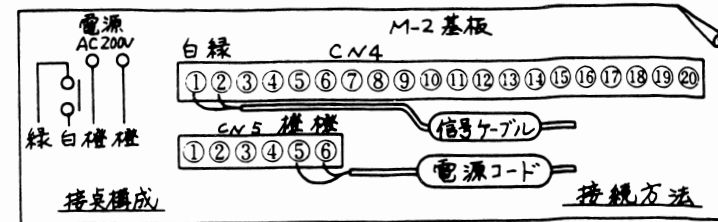


1. 電線の接続箇所を間違えて接続すると、こわれます。
確認をして接続して下さい。
2. 電線を接続して、端子ネジを締め付けしたら、軽く電線を引いて
確実に締め付けられているか確認して下さい。
3. オプション部品が多数接続される場合は、外部で並列に
接続したのちに、制御盤に接続して下さい。
4. オプション部品の結線は、後述の「オプションの使い方」を参考に接続して下さい。
5. 電線を途中で切って接続する場合は、電線の先端を充分捻って隣の線と
接触しないように特に注意して接続して下さい。

結線後はもう一度よくチェックして下さい。

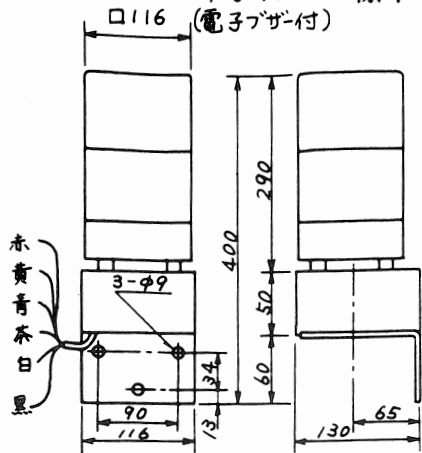
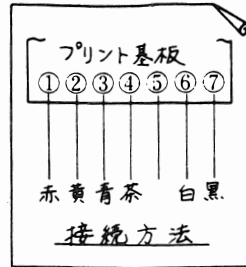


▼無線スイッチ(1点式)(シートシャッター仕様)



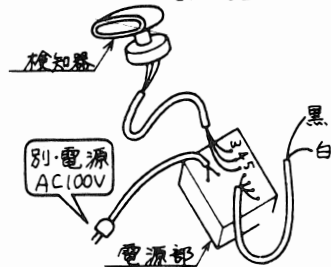
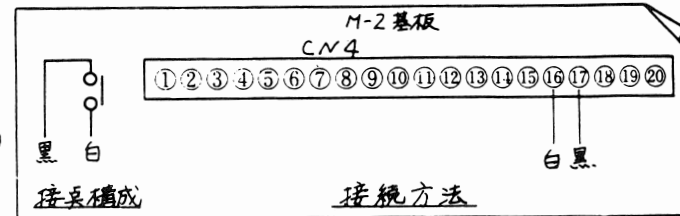
▼回転灯 2 段式 (専用架台付)

KU40 標準電線長さ2.5m
(電子フザ付)



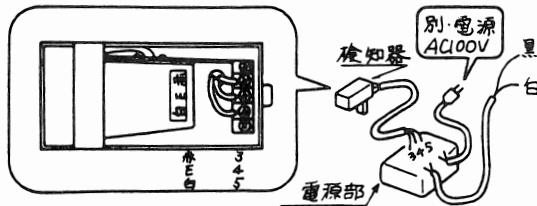
▼赤外線センサー

EN082

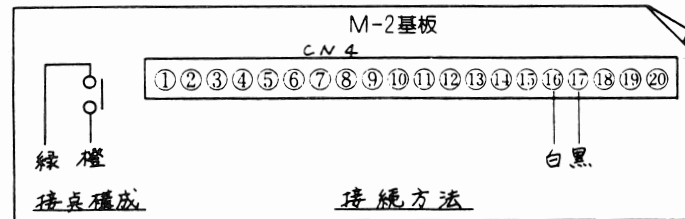


注意!! 電源 (AC 100 V) は制御盤内からとらないで下さい。

▼起動用超音波センサー 電源部

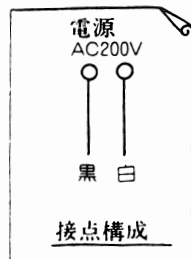
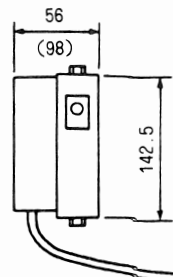


自動制御盤内部に収納できるのは、電源部2台までです。3台目からは、別置になります。収納箱等と電源 AC100Vは別途ご用意下さい。

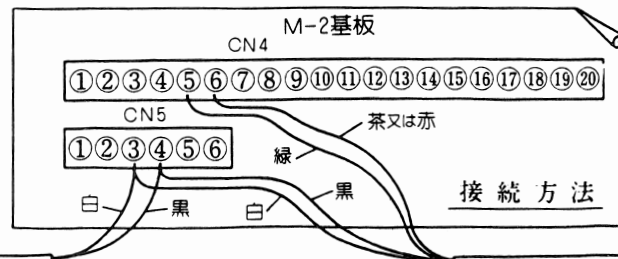


注意!! 電源 (AC 100 V) は制御盤内からとらないで下さい。

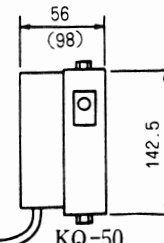
▼起動用光電管センサー



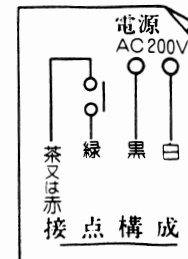
KQ-55 (KQ-65) 投光部



注意!! 電線長さは指示による。

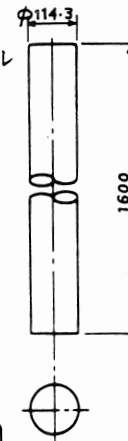


KQ-50 (KQ-60) 受光部



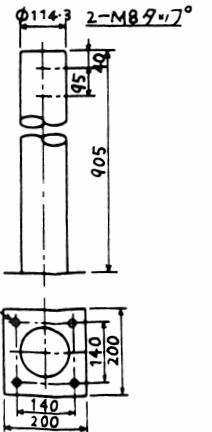
▼ガードポール

KV-20

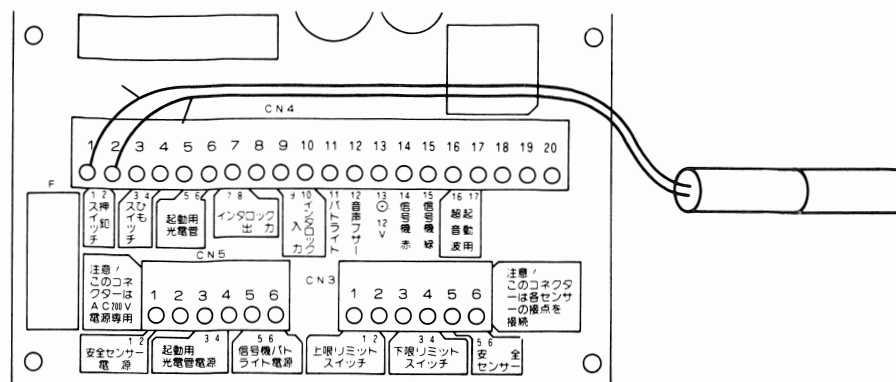


▼光電管ボール

KV-10



■押しボタンスイッチ・プルスイッチの接続



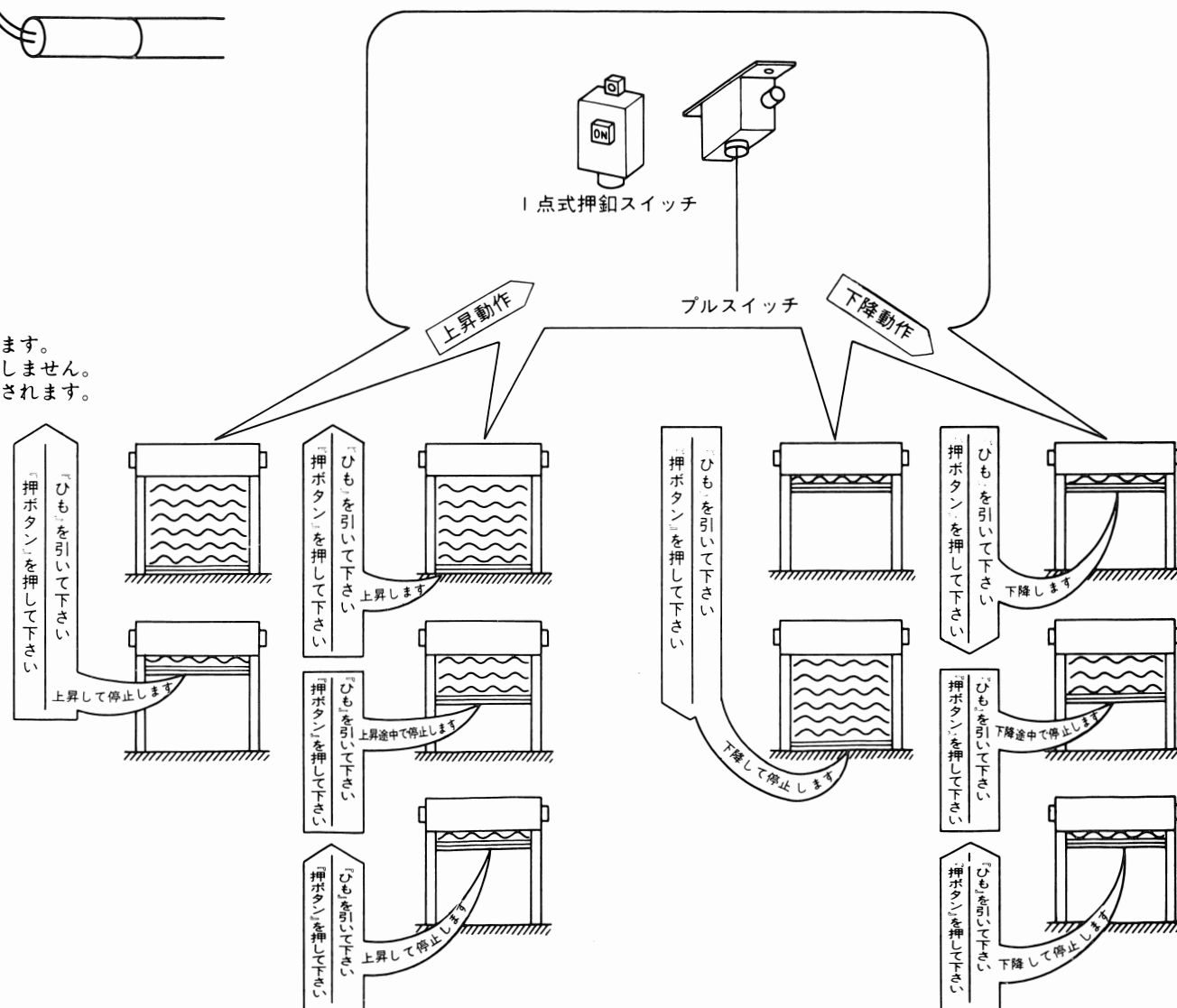
1.「自動制御盤の手動運転モード」の場合

- 下限の時に押ボタンスイッチを押すと、上昇します。
- 下降中に押ボタンスイッチを押すと、停止し再び上昇します。
- 上限の時に押ボタンスイッチを押し続けている間、下降しません。
- a, b, c 以外の時に押ボタンスイッチを押すと、無視されます。

2.「自動制御盤の手動運転モード」の場合

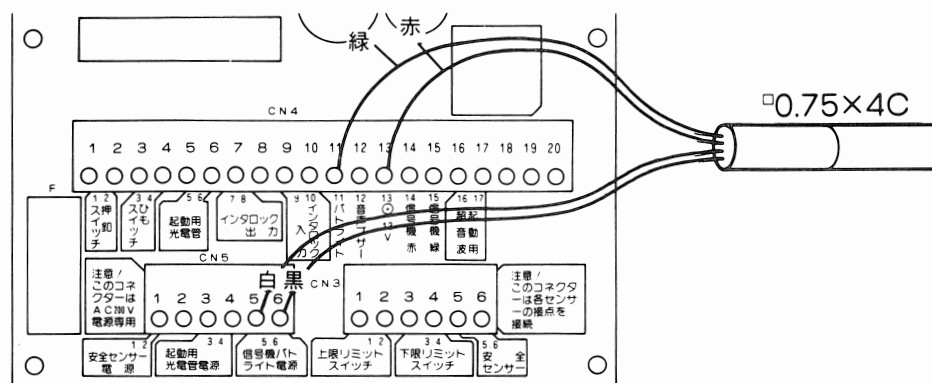
- 下限の時に押ボタンスイッチを押すと、上昇します。
- 上昇中に押ボタンスイッチを押すと、停止します。
- 上限の時に押ボタンスイッチを押すと、下降します。
- 下降中に押ボタンスイッチを押すと、停止します。
- 途中で停止中に押ボタンスイッチを押すと、上昇します。

※手動制御盤に接続する場合も同様の動きをする。

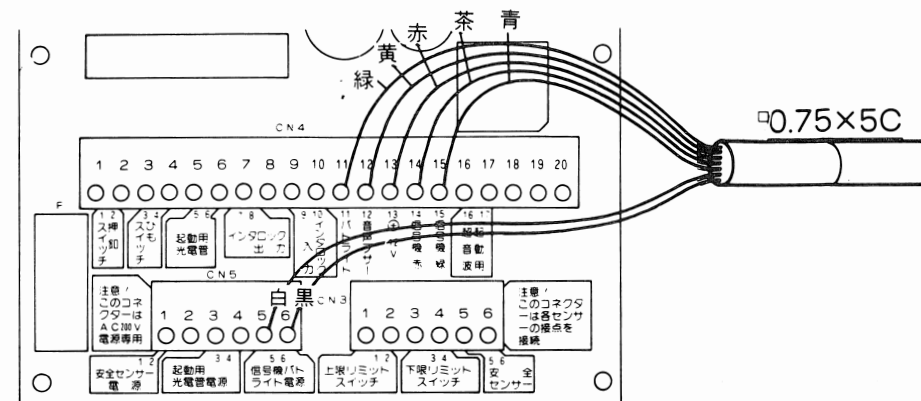


■パトライト・信号機・無線スイッチ（1点式）

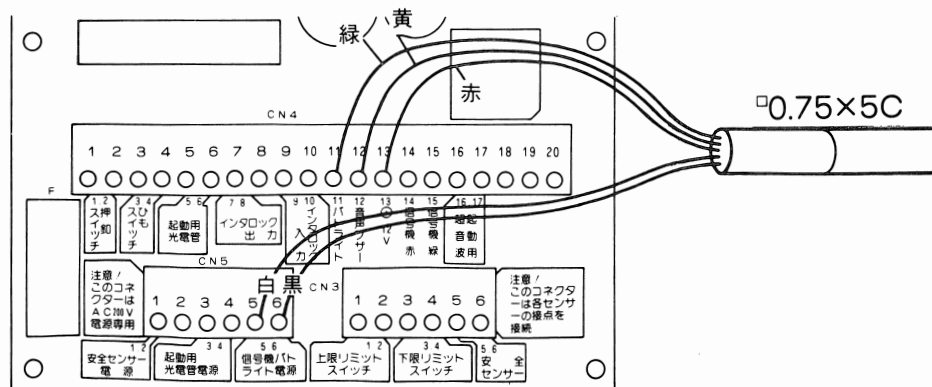
パトライト(ブザー無し)の接続



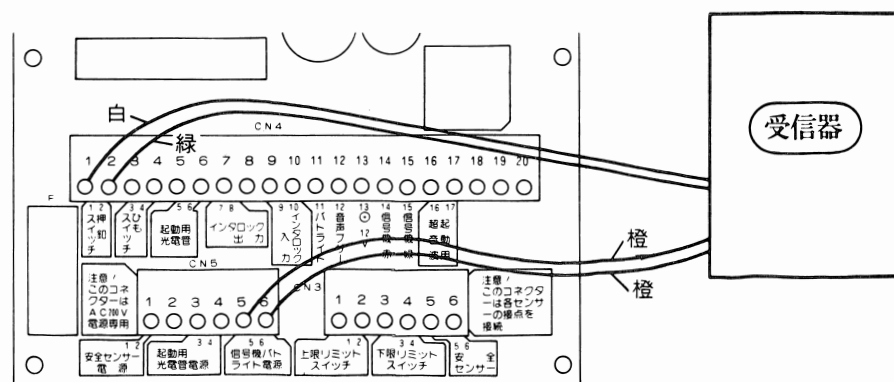
信号機(ブザー付き)の接続



パトライト(音声合成又はブザー付き)の接続

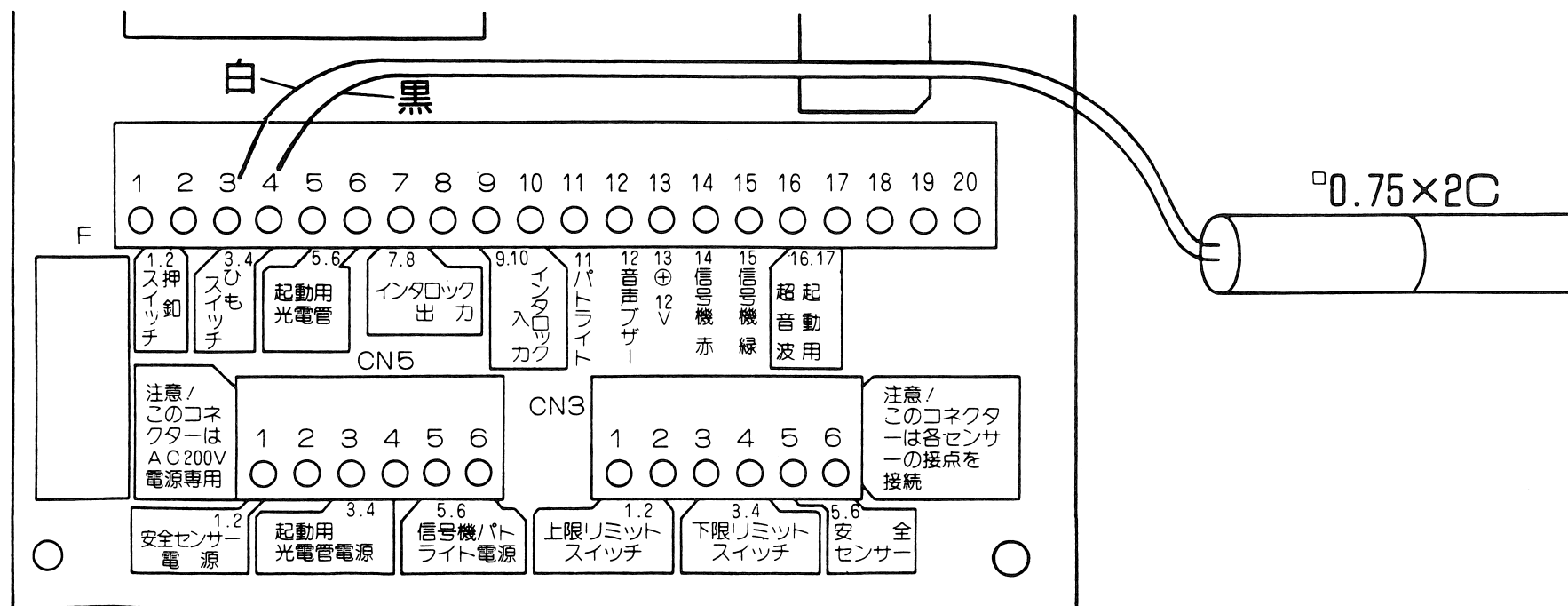


無線スイッチ（1点式）
(シートシャッター仕様)

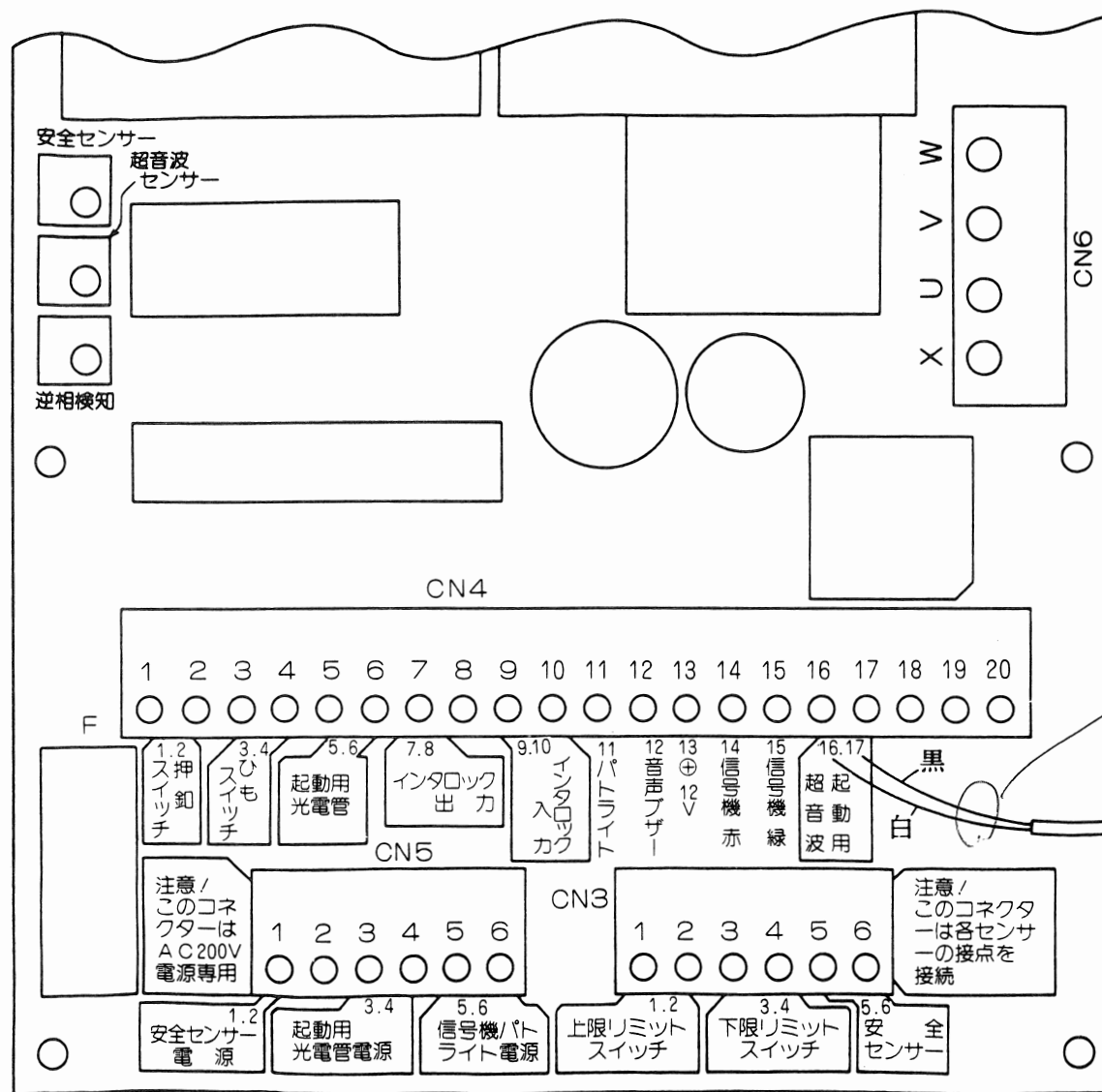


■起動用スイッチ(自動運転時のみ動作)

押しボタンスイッチ・プルスイッチの接続

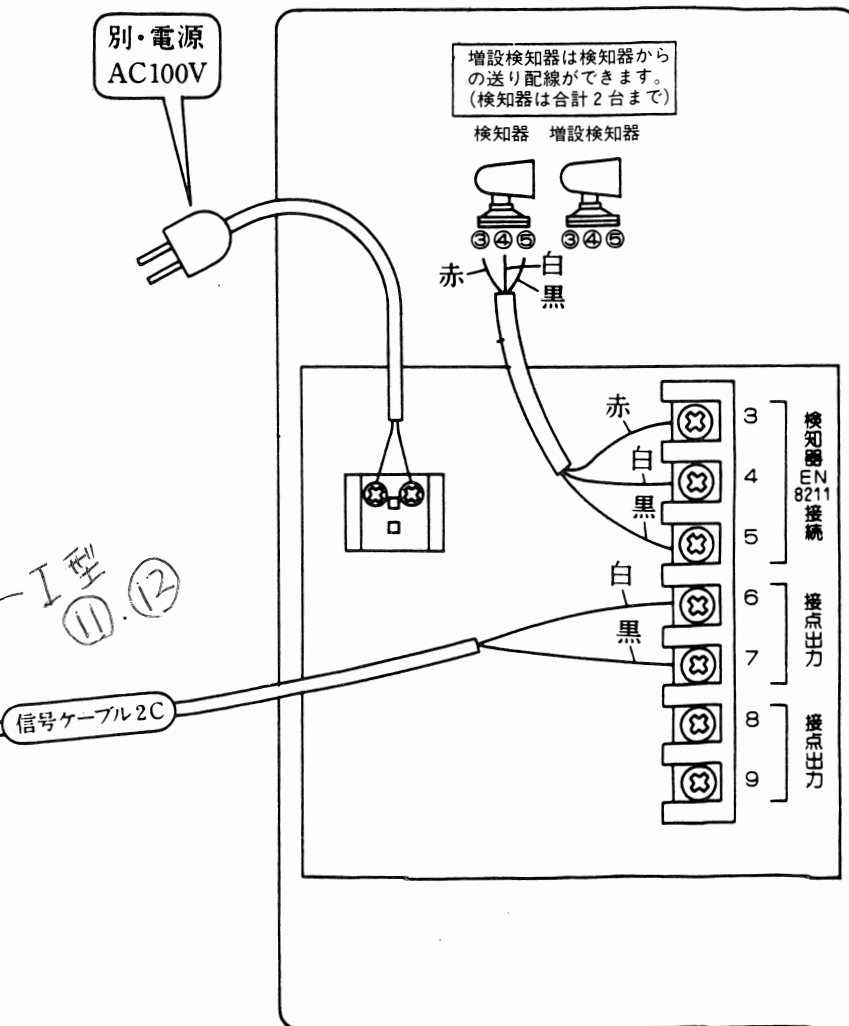


■ 赤外線センサーの接続



制御盤のプリント基盤 M2

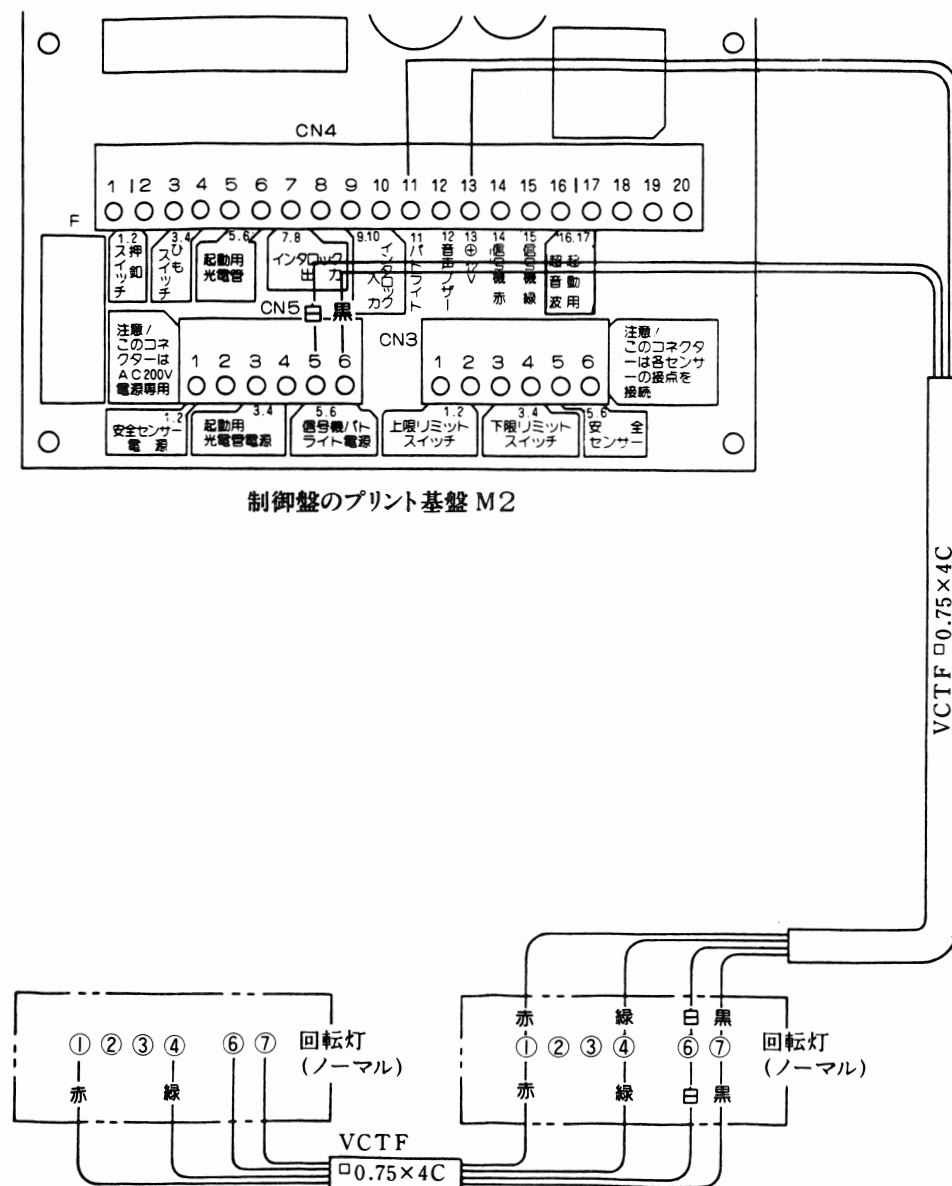
注意!! 電源(AC100V)は制御盤内からとらないで下さい



赤外線センサー

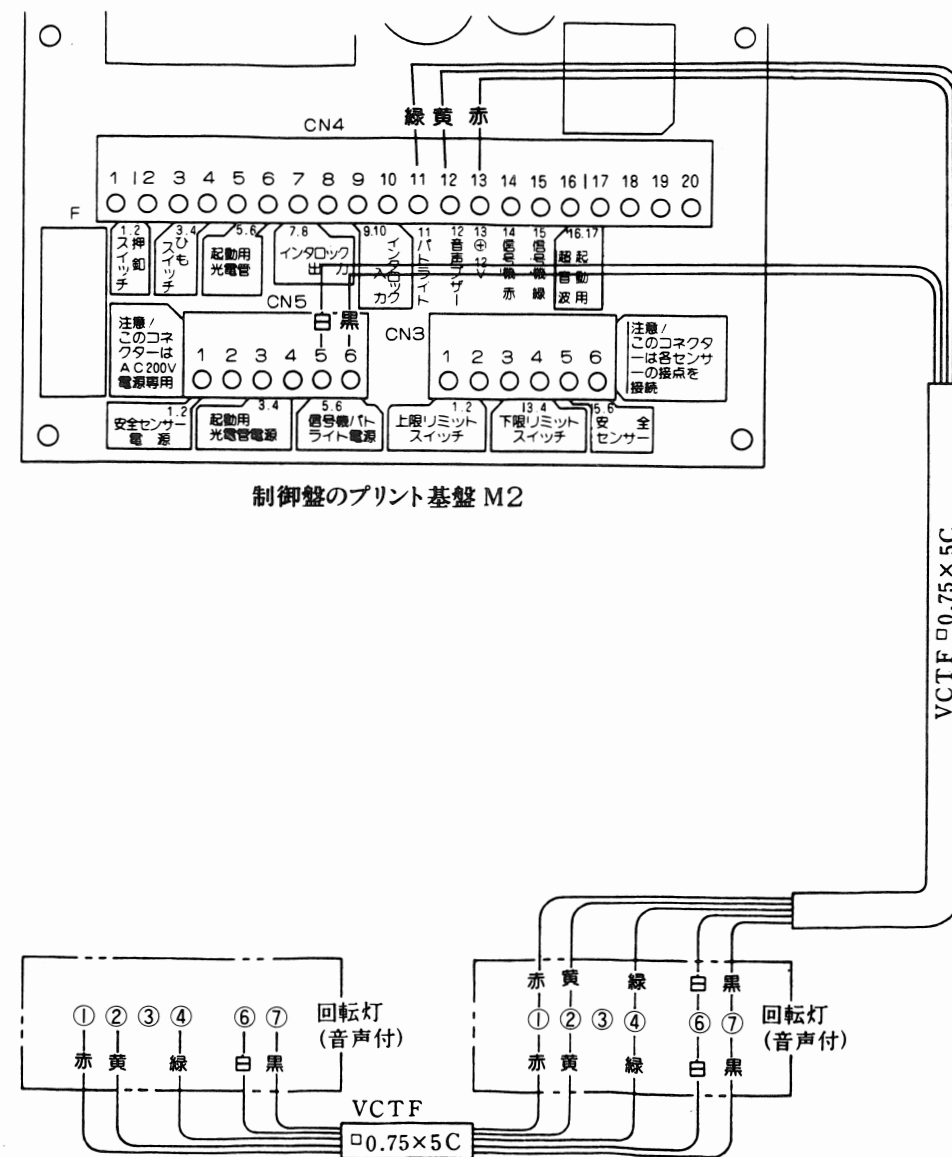
■ 電子式制御盤とオプションの接続方法

回転灯（ノーマル）が2台付の場合



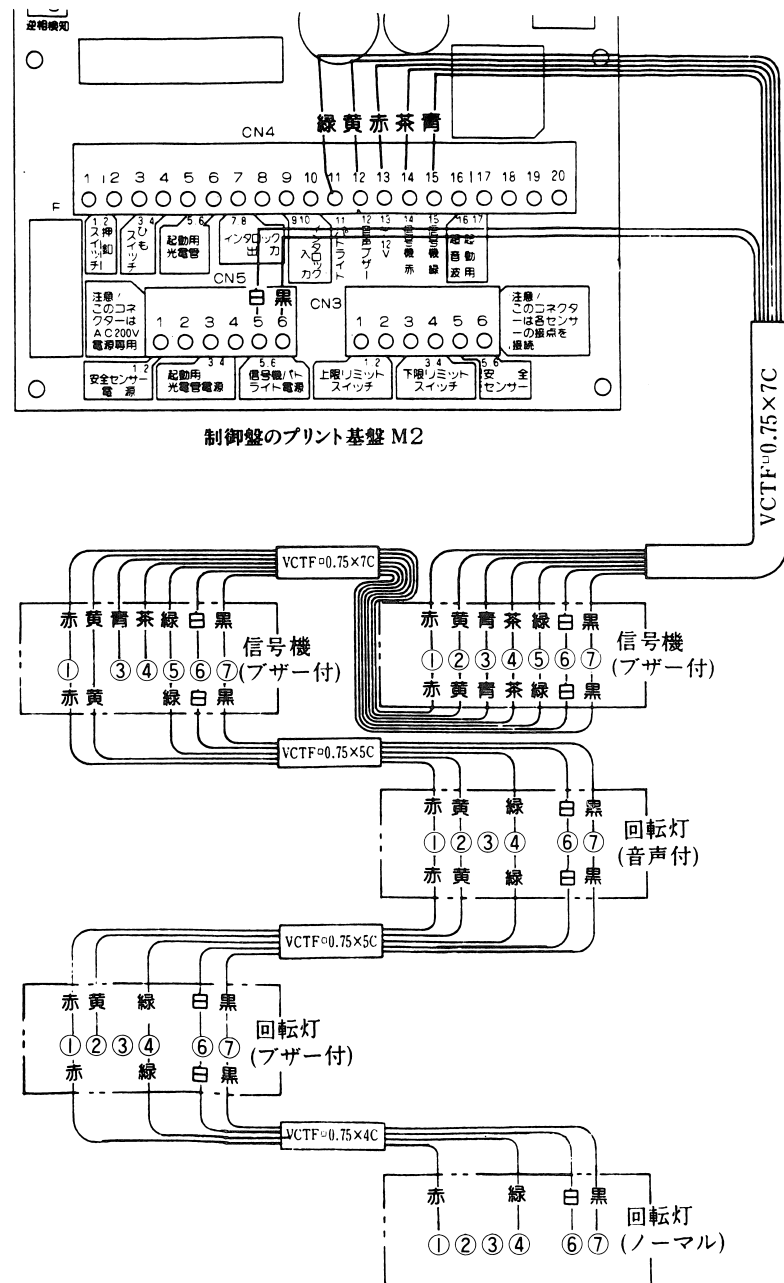
■ 電子式制御盤とオプションの接続方法

回転灯（ブザー又は音声）が2台付の場合



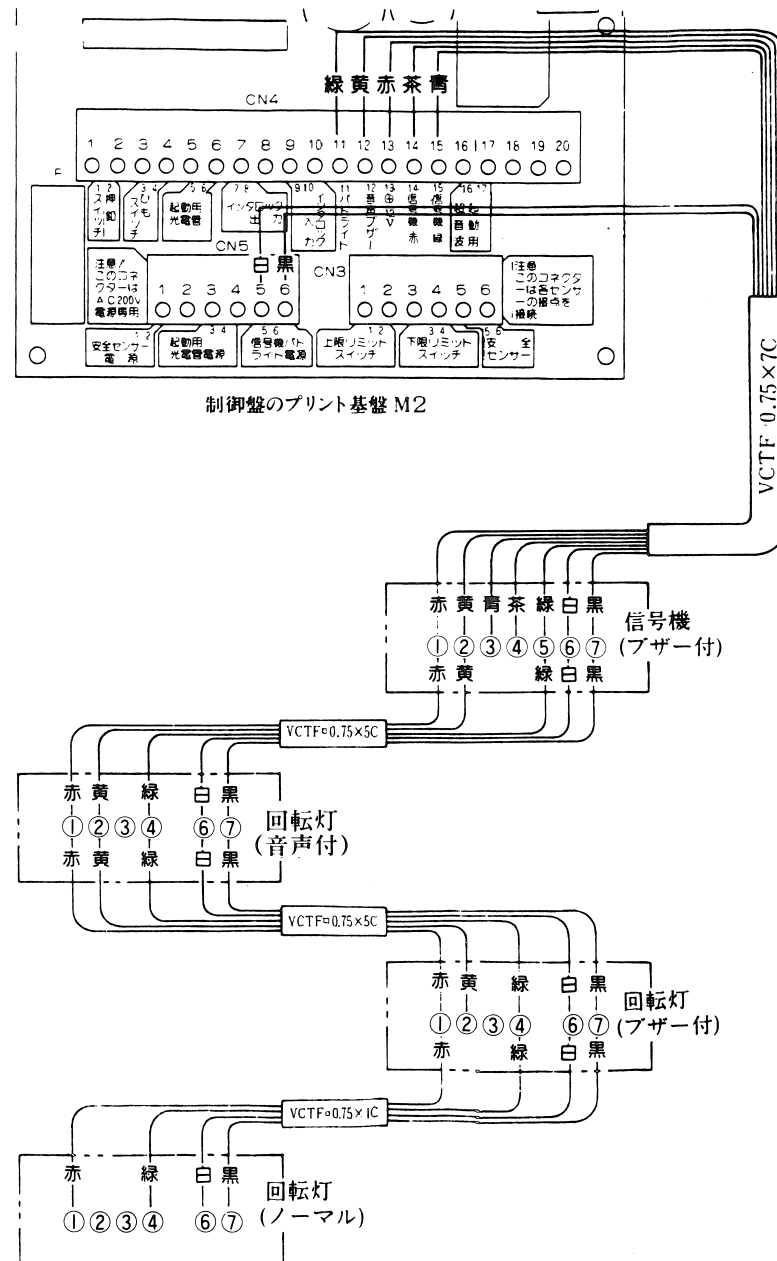
■ 電子式制御盤とオプションの接続方法

信号機が2台付き、回転灯が全て付く場合



■ 電子式制御盤とオプションの接続方法

全てのオプションが付く場合



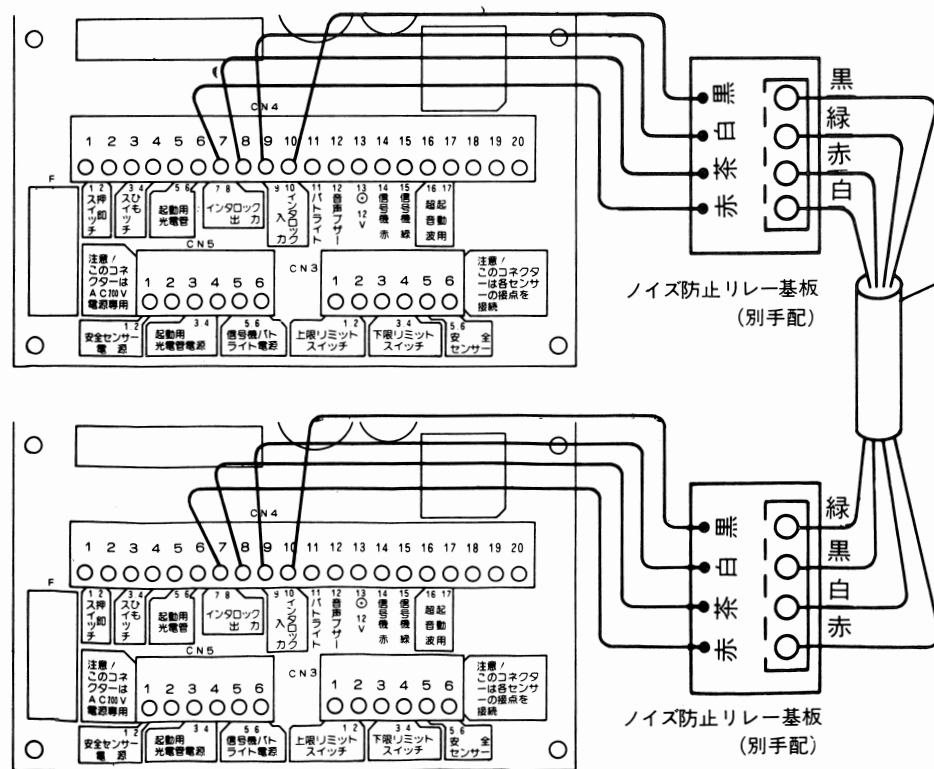
インターロック使用時の結線要領図

この結線図は、門番同志でインターロックをとる場合を示します。

別手配の「ノイズ防止リレー基板」(2枚1組)を介して結線します。

※電子制御盤同志以外の場合は、右の項の「インターロック中継基板」が必要です。

1. 電源を切り、下図のとおり結線して下さい。
2. 電源を入れる前に、再度端子番号と電線の色を確認して下さい。
3. 電子制御盤の扉内側にある、M1プリント基盤上のディップスイッチの3番を“ON”にすると、インターロックが働きます。



制御盤のプリント基盤 M2

門番と別の機器との インターロック使用時の結線要領図

この結線図は、門番と別な機器との間でインターロックをとる場合を示します。

別手配の「インターロック中継基板」が必要です。直接の結線は、自動制御盤や相手側の機器を破損する恐れがあります。

- ※別の機器とは、1) 電動式の、シャッター、ハンガードア、オーバースライディングドア等
2) 旧のリレー式制御盤を使用した門番
3) 自動搬送機等で、接点信号を出力出来るものを言います。

を言います。

1. 電源を切り、下図のとおり結線して下さい。
2. 電源を入れる前に、再度端子番号と電線の色を確認して下さい。
3. 電子制御盤の扉内側にある、M1プリント基盤上のディップスイッチの3番を“ON”にすると、インターロックが働きます。

出力端子「1」「2」：門番が閉鎖状態のとき「ON」となる無電圧のa接点信号を出力します。

入力端子「3」「4」：別の機器が閉鎖状態のとき(スタンバイ時)「ON」となる無電圧のa接点信号を入力して下さい。

